

# マレーシア語と述語階層\*

野元 裕樹, ウン・シンティ

## 1. 概要

Tsunoda (1981, 1985), Malchukov (2005)は、項の格標示パターンの類型論的研究に基づき、述語の階層を提示している。これらの階層は、述語の表す意味により規定されたいくつかの類から構成されており、より他動詞的な類からより自動詞的な類へと並ぶようになっていく。本稿では、特集のアンケート項目に基づいて、マレーシア語をこれらの階層にあてはめてみる。それによりこれらの階層の妥当性を検討する。

マレーシア語の名詞は、形態的格変化を持たない。しかし、Tsunoda (1981, 1985)は、英語の分析において、前置詞による標示も一種の格として扱っている。そこで、本稿でもそれを踏襲する。従って、マレーシア語の格標示パターンとしては、二項述語の場合、「主格－主格」と「主格－前置詞」の2パターンがあることになる。その他、本稿では、他動詞形成に関わる接尾辞-kan および-i の生起についても着目する。

本稿で示すデータは、マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる、マレーシア語の標準方言のものである。標準方言においては、書き言葉と話し言葉があり、2つの変種の間には大きな差があり、ダイグロシヤ状況を生んでいる。本稿のデータは基本的に書き言葉のものである。例文は原則としてコンサルタントへの聞き取り調査によって得られたデータをそのまま掲載する。

Tsunoda (1981, 1985)を日本語で紹介した角田 (1991/2009)にある表を、第2節に示す例文に基いて改変したのが表1である。主格は $\emptyset$  (ゼロ)で示してある。角田 (1991)に従い、前置詞は具体的な前置詞を示した。角田によれば、この表で右に行くほど「他動性」が下がる。角田のいう「他動性」とは、動作が対象に及ぶことにより対象が変化を受けることを意味する、「原型的他動詞文」に意味的、形態統語的にどのくらい近いかの度合いのことである。表1からマレーシア語に関して分かるのは、以下の3点である。①「主格－主格 ( $\emptyset$ － $\emptyset$ )」は1類から6類まで連続して現れる。これは日本語の「主格－対格 (ガ－ヲ)」に対応する。②「主格－前置詞」は4類から7類まで連続して現れる。ただし、2類Aにも飛び地的に現れる。③接尾辞-iは4類から6類に連続して現れる。ただし、2類Aにも飛び地的に現れる。

表2は、Tsunoda (1981, 1985)の階層を修正した、Malchukov (2005)の述語階層にマレーシア語をあてはめたものである。Malchukovの階層は、Tsunodaの階層を2つの下位階層に分

---

\* 本稿の執筆にあたり、Hazrie Hamdan氏にコンサルタントとしてご協力いただいた。ここに感謝の意を記したい。

け、さらに一項述語まで視野に入れている。表 2 では、「直接影響」は双方の下位階層に共通で、上の下位階層（直接影響>接触>追及>移動）では他動詞目的語の「被動作主らしさ」が右へ行くほど下がり、下の下位階層（直接影響>知覚・認識>感情>感覚）では他動詞主語の「動作主らしさ」が右へ行くほど下がる。（「被動作主らしさ」、「動作主らしさ」の定義に関する議論は、Malchukov (2005)を参照。）この表でも、マレーシア語の「主格－主格」は連続して現れ、日本語の「主格－対格」に対応することが分かる。「主格－前置詞」と接尾辞-i は、階層の右側で、連続できる場合は連続して現れる<sup>1</sup>。Malchukov の階層では、Tsunoda の階層で生じた飛び地の問題が解消される。これは Tsunoda の階層の 2 類の A と B が統合されている上、3 類が 2 類および 4 類と別の下位階層に配置されていることによる。

以上のことより、Tsunoda, Malchukov の述語階層は、マレーシア語の格標示パターンや接尾辞-i の分布から見て、妥当なものであると言える。ただ、マレーシア語という個別言語の記述・分析においては、述語階層の果たす役割は小さい。これには主に 2 つの理由がある。まず、マレーシア語の名詞は形態的格変化をしないため、そもそも述語階層によって捉えられる格標示パターンの数が 2 つしかない。そして、何より重要なのは、述語階層から得られる一般化は当該の類に属するすべての述語に成り立つわけではないという点である。例えば Tsunoda の階層では、5 類には「主格－主格」と「主格－前置詞」の 2 パターンが存在することは言える。だが、これら 2 パターンが 5 類の述語で可能であるとは言えない。どちらのパターンが可能かは個々の述語によって異なる。そのような個々の述語の取るパターンの地道な研究の蓄積は、言語学のみならず、言語教育や自然言語処理にも利するのだが、マレーシア語ではほとんどなされておらず、今後の課題である。

---

<sup>1</sup> 「感覚」は、アンケート項目に関する限り、すべて一項述語なので除外できる。

表 1 Tsunoda の述語階層

類	1 直接影響		2 知覚		3 追及	4 知識	5 感情	6 関係	7 能力
例	<b>1A</b> 殺す, 壊す, 温める ; membunuh, merosakan, mamana skan	<b>1B</b> 叩く, 蹴る, ぶつか る ; menendan g, menyepak, melanggar /terlanggar	<b>2A</b> see, hear, 見つける ; menjumpai/ (ter)jumpa	<b>2B</b> look , listen ; melihat, menden gar	待つ, 探す ; menunggu, mencari	知る, わかる, 覚える, 忘れる ; mengetahui/tahu , mengenali/ kenal, memahami/ faham, ingat/ mengingati, (ter)lupa	愛す, 惚れる, 好き, 嫌い, 欲しい, 要る, 怒る, 恐れる ; menyayangi/ sayang, suka/ menyukai, (mem)benci/ membencikan, (meng)inginkan/ ingin/ mengingini, memerlukan/ perlu, memarahi/ marah, takut	持つ, ある, 似る, 欠ける, 成る, 含む, 対応する ; ada, mempunyai, memiliki, sama/ menyamai, mengandungi, (men)jadi	できる, 得意, 強い, 苦手, good, capable ; proficient/berkebolehan, berupaya, mahir, lemah
日本語	ガーヲ	ガーヲ ガーニ	ガーヲ		ガーヲ	ガーヲ ガーニ ガーガ  ニーガ	ガーヲ ガーニ ガーガ  ニーガ	ガーヲ ガーニ  ガーカラ ニーガ	ガーヲ  ガーガ  ニーガ
マレーシア語	Ø-Ø	Ø-Ø	Ø-Ø Ø-dengan	Ø-Ø	Ø-Ø	Ø-Ø Ø-dengan Ø-akan Ø-tentang	Ø-Ø  Ø-akan Ø-pada/kepada	Ø-Ø  Ø-seperti	Ø-dalam
	-kan		-i			-i	-kan, -i	-i	

表 2 Malchukov (2005) の述語階層

類 (Tsunoda)	直接影響 (1A)	接触 (1B)	追及 (3)	移動 (-)
例	殺す, 壊す, 温める	叩く, 蹴る, ぶつかる	待つ, 捜す	着く, 渡る, 横切る, 通る; sampai, menyeberangi/menyeberang, melalui/lalu
日本語	ガーヲ	ガーヲ ガーニ	ガーヲ	ガーヲ ガーニ
マレーシア語	Ø-Ø -kan	Ø-Ø	Ø-Ø	Ø-Ø Ø-di Ø-ke -i
類 (Tsunoda)	直接影響 (1A)	知覚・認識 (2, 4)	感情 (5)	感覚 (-)
例	殺す, 壊す, 温める	see, hear, 見つける, look, listen, 知る, わかる, 覚える, 忘れる	愛す, 惚れる, 好き, 嫌い, 欲しい, 要る, 怒る, 恐れる	寒い, (お腹を空かしている, 喉が渴いている); lapar/kelaparan, dahaga, kehausan/haus, sejuk/kesejukan
日本語	ガーヲ	ガーヲ ニーガ	ガーヲ ガーニ ガーガ ニーガ	ガ
マレーシア語	Ø-Ø -kan	Ø-Ø Ø-dengan Ø-akan Ø-tentang -i	Ø-Ø Ø-akan Ø-pada Ø-kepada -kan, -i	Ø

## 2. データ

### (1) 【直接影響・変化】

- a. Dia telah mem-bunuh lalat itu.<sup>2,3</sup>  
3SG PERF ACT-kill fly that  
「彼はそのハエを殺した。」
- b. Dia telah me-rosak-kan kotak itu.  
3SG PERF ACT-broken-CAUS box that  
「彼はその箱を壊した。」
- c. Dia telah mem-[p]anas-kan sup itu.  
3SG PERF ACT-warm-CAUS soup that  
「彼はそのスープを温めた。」
- d. #Dia telah mem-bunuh lalat itu, namun tidak mati.  
3SG PERF ACT-kill fly that however not dead  
「#彼はそのハエを殺したが、死ななかった。」
- e. #Dia telah me-rosak-kan kotak itu, namun tidak rosak.  
3SG PERF ACT-broken-CAUS box that however not broken  
「#彼はその箱を壊したが、壊れなかった。」
- f. #Dia telah mem-[p]anas-kan sup itu, namun tidak panas.  
3SG PERF ACT-warm-CAUS soup that however not warm  
「彼はそのスープを温めたが、温まらなかった。」
- f'. #Dia telah mem-[p]anas-kan sup itu sehingga men-didih, namun  
3SG PERF ACT-warm-CAUS soup that until ACT-boil however  
tidak men-didih.  
not ACT-boil  
「#彼はそのスープを沸騰するまで温めたが、沸騰しなかった。」

(1a)では、動詞に接尾辞-kanを付けられない。一方、(1b-c)では動詞から-kanを省くことはできない。(1d-f')はいずれも文法的であるが、2つの節が意味的に矛盾する。(1d)が不適切であることから、動詞 membunuh「殺す」が mati「死んでいる」という結果を意味論的に含意(entail)することが分かる。(1e-f')が不適切なのは、形容詞を基体とする-kan使役動詞が形容詞の意味を意味論的に含意することによる。ちなみに、(1e)と(1f)の日本語訳で容

<sup>2</sup> Leipzig Glossing Rules にない略号：ACT: active; PERF: perfect.

<sup>3</sup> 能動態標識 meN-の N は鼻音要素を表し、語幹の最初の音に応じて変化する。なお、語幹が p, t, s, k で始まる場合、これらの音は脱落する。本稿では、これらの脱落する無声阻害音を[ ]に入れて表記することにする。

認度に差が出るのは、「壊す」は尺度を持たないのに対し、「温める」が尺度を持つことによる。つまり、対象のある一点について、「壊す」はその点が「壊れている」か「壊れていない」かのいずれかであるのに対し、「温める」はその点で「1, 2, …度温度が上昇した」というように、到達点が未指定の度合いが存在する。なお、到達点は必ずしも言語表現で表される必要はないので、話者が暗黙のうちに到達点を想定している場合、(1e)の日本語訳は不適格と判断されることになる。

(2) 【直接影響・無変化】

- a. Dia telah men-[t]endang bola itu.  
3SG PERF ACT-kick ball that  
「彼はそのボールを蹴った。」
- b. Perempuan itu telah meny-[s]epak kaki lelaki itu.  
woman that PERF ACT-kick leg man that  
「彼女はその男の足を蹴った。」
- c. Dia telah me-langgar orang itu.  
3SG PERF ACT-collide person that.  
「彼はその人にぶつかった (故意に).」
- d. Dia telah ter-langgar orang itu.  
3SG PERF TER-collide person that.  
「彼はその人にぶつかった (うっかり).」

非意図的行為は、(2d)のように接頭辞 *ter-*により表すことができる。なお、(2c)の接頭辞 *meN-*は意図的行為を表すわけではない。*dengan tidak sengaja*「意図せず」のように非意図性を明示的に表す表現を付ければ、問題なく非意図的行為を表すことができる。

(3) 【知覚】

- a. Ke-lihat-an beberapa orang (ada) di sana.  
KE-look-AN some person be at there
- a'. Beberapa orang ke-lihat-an (ada) di sana.  
some person KE-look-AN be at there
- a''. Di sana ke-lihat-an (ada) beberapa orang.  
at there KE-look-AN be some person
- a'''. \*Saya ke-lihat-an (ada) beberapa orang di sana.  
1SG KE-look-AN be some person at there  
「あそこに人が数人見える。」

- b. Dia telah me-lihat rumah itu.  
3SG PERF ACT-look house that  
「彼はその家を見た。」
- c. Ke-dengar-an jeritan dari(pada) seseorang  
KE-listen-AN shout from someone  
「誰かが叫んだのが聞こえた。」
- d. Dia telah men-dengar bunyi itu.  
3SG PERF ACT-listen sound that  
「彼はその音を聞いた。」

動詞 *kelihatan* 「見える」は、節（または名詞句）を補部に取り一動詞である。(3a'')が非文となるのは、*saya* 「私」という余計な項が存在するためである。Kartini & Nomoto (予定) が指摘するように、*kelihatan* は典型的な繰上げ (raising) 動詞である。(3a')は、補文中の主語が主文の主語位置へと繰り上がったものである。同じく「見える」という意味の動詞 *nampak* は、*kelihatan* とは少し振舞いが異なる。(3a'')のパターンでは、節のみを補部にする。つまり、動詞 *ada* 「いる」は義務的になる (\**Di sana saya nampak beberapa orang.*)。そして、(3a'')のパターンが可能である。つまり、名詞句と節を取る二動詞の用法が存在する ([*NP Saya*] *nampak* [<sub>S</sub> *ada beberapa orang di sana.*])。 (3c)の *kedengaran* 「聞こえる」は、*kelihatan* 「見える」と同様、一動詞である。Tsunoda (1981, 1985)の階層は、名詞句を2つ取る述語のみを対象とする。よって、*kelihatan*, *kedengaran*, *nampak* のように一動詞や名詞句と節を項とする二動詞は、上の表 1 に入れていない。一方、(3b), (3d)の *melihat* 「見る」、*mendengar* 「聞く」は、名詞句を2つ取る二動詞なので、表 1 の 2B に入れてある<sup>4</sup>。

(4) 【知覚 (発見, 生産)】

- a. Dia telah men-jumpa\*(-i)/ter-jumpa\*(-i) kunci yang hilang.  
3SG PERF ACT-see-I/TER-see-I key REL lost

<sup>4</sup> 査読者によれば、インドネシア語では接尾辞-kan を伴う「mendengarkan が英語の listen to に対応し、かつ mendengar よりもはっきりとした他動性を見せる」という。マレーシア語にも mendengarkan という形式は存在する。mendengar と mendengarkan の間には、微妙な意味の違いが存在するようである。しかし、2 つの形式の間に、本稿で問題となっている角田 (1991) の他動性に関わる違いがあるのかは不明である。ちなみに、類似の概念である、Hopper & Thompson (1980) の他動性に関しては、インドネシア語の接尾辞-kan が高い他動性と関係することが具体的なデータに基づいて指摘されており、これはマレーシア語についても成り立つ。

- a. Dia telah jumpa (dengan) kunci yang hilang. (口語)  
 3SG PERF see with key REL lost  
 「彼は(なくした)鍵を見つけた。」
- b. Dia telah mem-buat kerusi.  
 3SG PERF ACT-make chair  
 「彼は椅子を作った。」

(4a)において、接尾辞-iの生起は共起する接頭辞により異なる。共起する接頭辞が meN-の場合、-iが義務的である。一方、共起する接頭辞が ter-の場合、-iは生起できない。

(5) 【追及】

- a. Dia sedang men-[t]unggu bas.  
 3SG PROG ACT-wait bus  
 「彼はバスを待っている。」
- b. Saya sedang men-[t]unggu dia datang.  
 1SG PROG ACT-wait 3SG come  
 「私は彼が来るのを待っていた。」
- c. Dia sedang men-cari dompet.  
 3SG PROG ACT-look.for wallet  
 「彼は財布を探している。」

(6) 【知識】

- a. Dia serba meng-[k]e-tahu-i/tahu (tentang) bermacam-macam perkara.  
 3SG all ACT-KE-know-I/know about various matter  
 「彼はいろいろなことをよく知っている。」
- b. Saya meng-[k]enal-i (\*dengan) orang itu.  
 1SG ACT-know-I with person that
- b'. Saya kenal (dengan) orang itu.  
 1SG know with person that  
 「私はあの人を知っている。」
- c. Dia mem-[f]aham-i/faham bahasa Kantonis.  
 3SG ACT-understand-I/understand language Cantonese  
 「彼には広東語がわかる。」

接尾辞-iは普通、適用標識であるとされる。しかし、-i動詞が名詞句だけでなく、前置詞



句を取ることもある。(3a)の *mengetahui* 「知っている」は前置詞句を取れるのに対し、(3b)の *mengenal* 「(面識があって) 知っている」は前置詞句を取れない。どのような場合に、-i 動詞が前置詞句を取ることができるかは不明である。また、生起する前置詞はたいいていの場合、語根形で生起する前置詞と同じであるが、異なる場合もある(例:(8))。 (6b)の *mengenal* と(6b')の *kenal* は、ともに「知っている」と訳せるものの、その意味は全く同じではない。コンサルタントによれば、前者がその人の性格などを含めてよく知っているの事を表すのに対し、後者は過去に会ったことはあっても顔を忘れてしまっている場合などでも使える。角田(1991: 98)は、このような区別は4類の下位分類につながる可能性があると述べている。*mengenal* と *kenal* の違いについては、Soh & Nomoto (予定) が前者に含まれる、接頭辞 *meN-*の役割の点から論じている。

(7) 【知識】

- a. *Awak masih meng-ingat-i/ingat lagi (akan) perkara yang saya*  
 2SG still ACT-remember-I/remember yet of matter REL 1SG  
*katakan semalam?*  
*say yesterday*  
 「あなたは昨日私が言ったことを覚えていますか？」
- b. *Saya ter-lupa/lupa nombor telefon-nya.*  
 1SG TER-forget/forget number telephone-3SG  
 「私は彼の電話番号を忘れてしまった。」

(8) 【感情】

- a. *Ibu meny-[s]ayang-i (\*pada/akan) anak-anak-nya dengan mendalam.*  
 mother ACT-love-I on/of child-PL-3SG with deep
- a'. *Ibu sayang (pada/akan) anak-anak-nya dengan mendalam.*  
 mother love on/of child-PL-3SG with deep  
 「母は子供たちを深く愛していた。」
- b. *Saya meny-[s]uka-i (\*pada/\*akan) pisang.*  
 1SG ACT-like-I on/of banana
- b'. *Saya suka (pada/akan) pisang.*  
 1SG like on/of banana  
 「私はバナナが好きだ。」
- c. *Saya mem-benci (pada/akan) orang itu.*  
 1SG ACT-hate on/of person that

- c'. Saya benci (pada/akan) orang itu.  
 1SG hate on/of person that
- c''. Saya mem-benci-kan orang itu.  
 1SG ACT-hate- KAN person that  
 「私はあの人が嫌いだ. 」

(8c)の membenci 「嫌う」は、実は-i 動詞である。これは、i で終わる基体の-i 動詞形では、音韻的理由から i を重ねることはせず、i が 1 つしか現れないためである。また、(8c'')の membencikan の接尾辞-kan は、(1b)や(1c)に見られる使役の-kan ではなく、前置詞 akan と関係するものである。この種の-kan のグロスは、単に-KAN としてある。

(9) 【感情】

- a. Saya (meng-)ingin-kan/ingin/meng-ingin-i (akan) kasut.  
 1SG ACT-want-KAN/want/ACT-want-I of shoe  
 「私は靴が欲しい. 」
- b. Sekarang, dia mem-[p]erlu-kan (akan) wang.  
 now 3SG ACT-need-KAN of money
- b' Sekarang dia perlu (\*akan) wang.  
 now 3SG need of money  
 「今、彼にはお金が要る. 」

(10) 【感情】

- a. Ibu saya me-marah-i (\*pada/\*akan) adik lelaki saya  
 mother 1SG ACT-angry-I on/of younger.sibling male 1SG  
 kerana berbohong.  
 because lie
- a'. Ibu saya marah (pada/akan) adik lelaki saya kerana berbohong.  
 mother 1SG angry on/of younger.sibling male 1SG because lie  
 「(私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている. 」
- b. Dia takut (pada/akan) anjing.  
 3SG afraid on/of dog  
 「彼は犬が怖い. 」

(11) 【関係】

- a. Dia sama \*(seperti) ayah.  
3SG same like father  
「彼は父親に似ている。」
- a'. Dia meny-[s]ama-i (seperti) ayah.  
3SG ACT-same-I like father  
「彼は父親に似ている。」
- b. Air laut meng-[k]andung-i (\*dengan) garam.  
water water ACT-contain-I with salt  
「海水は塩分を含んでいる。」
- c. Di atas meja ada sudu.  
at top table be spoon  
「テーブルの上にスプーンがある。」
- d. Orang itu ada/mem-punya-i/me-milik-i tiga orang anak.  
person that have/ACT-own-I/ACT-possess-I three CLF child  
「あの人には3人子供がいる。」

存在を表す(11c)と所有を表す(11d)は、今回のアンケート項目にはなかったもので、野元、ウン&ファリダ (2013) の文を再掲した。

(12) 【関係】

- a. Adik lelaki saya se-orang doktor.  
younger.sibling male 1SG one-CLF doctor  
「私の弟は医者だ。」
- b. Adik lelaki saya telah (men-)jadi se-orang doktor.  
younger.sibling male 1SG PERF ACT-become one-CLF doctor  
「私の弟は医者になった。」

(12a)では、コンピュータが現れていない。コンピュータの *adalah* を述語の名詞句の前に入れることもできる。

(13) 【能力】

- a. Dia berkebolehan/berupaya \*(dalam) pemanduan kereta.  
3SG ahave.ability/have.capability in driving car  
「彼は車の運転ができる。」

- a'. Dia boleh mem-[p]andu kereta.  
 3SG can ACT-drive car  
 「彼は車が運転できる。」
- b. Dia boleh berenang.  
 3SG can swim  
 「彼は泳げる。」
- b' Dia berkebolehan/berupaya \*(dalam) renang.  
 3SG ahave.ability/have.capability in swimming  
 「??彼は泳ぎができる。」

(13a), (13b')は、動作を表す名詞「運転」、「泳ぎ」を用いた表現で、直訳すれば「運転／泳ぎにおいて能力がある」となる。この構文では前置詞 *dalam* 「において」は義務的である。ただ、このような表現よりは助動詞 *boleh* 「できる」を用いた、(13a'), (13b)のような表現の方が普通である。

(14) 【能力】

- a. Dia mahir (dalam) berkata-kata.  
 3SG skillful in talk  
 「彼は話をするのが上手だ。」
- b. Dia lemah (dalam) berlari.  
 3SG weak in run  
 「彼は走るのが苦手だ。」

前置詞 *dalam* 「において」の後には、(13)のように名詞が続く他、(14)のように動詞が続くことも可能である。

(15) 【移動】

- a. Dia telah sampai (di/ke) sekolah.  
 3SG PERF reach at/to school  
 「彼は学校に着いた。」
- b. Dia telah meny-[s]eberang-i (\*di/\*ke) jalan.  
 3SG PERF ACT-across-I at/to road
- b'. Dia telah meny-[s]eberang (\*di/\*ke) jalan.  
 3SG PERF ACT-across at/to road  
 「彼は道を渡った／横切った。」

- c. Dia me-lalu-i (\*di) jalan itu.  
 3SG ACT-pass-I at road that  
 c'. Dia lalu (di) jalan itu.  
 3SG pass at road that  
 「彼はあの道を通った。」

(15b-b')のように、「渡る／横切る」は、接尾辞-iの有無にかかわらず、名詞句しか取らない。それに対し、「通る」は(3c')のように前置詞句を取ることができる。

(16) 【感覚】

- a. Dia lapar/ke-lapar-an.  
 3SG hungry/KE-hungry-AN  
 「彼はお腹を空かしている。」  
 b. Dia dahaga/\*ke-dahaga-an.  
 3SG thirsty/KE-thirsty-AN  
 b'. Dia haus/ke-haus-an.  
 3SG thirsty/KE-thirsty-AN  
 「彼は喉が渴いている。」

周接辞 ke-...-an の付いた形は、被害を表す。ただし、マレーシア語ではこの接辞の付く語は限られている。例えば、(16b)の dahaga 「喉が渴いた」にこの接辞は付かない。

(17) 【感覚】

- a. Saya sejuk/ke-sejuk-an.  
 1SG cold/KE-cold-AN  
 「私は寒い。」  
 b. Hari ini sejuk/ke-sejuk-an.  
 day this cold/KE-cold-AN  
 「今日は寒い。」

被害を表す ke-...-an 形を含む文では、被害を被る人物が主語となる。(17a)では、当該の主語は音形を持つ名詞句 saya 「私」で実現されている。一方、(17b)では、主語は音形を持って実現されていない。文頭の hari ini 「今日」は kesejukan 「寒い」の主語ではなく、修飾要素である。周接辞 ke-...-an を伴わない sejuk 「寒い」は、(17a)のように、寒いという感覚を経験する人物を主語に取るだけでなく、「寒い(=温度が文脈上規定される基準に比べて低

い)」という性質を満たす事物を主語に取ることもできる。これは英語の cold と同じである (I'm cold./It's cold today.)。

(18) 【(社会的) 相互行為】

- a. Saya telah men-[t]olong-nya/mem-bantu-nya.  
1SG PERF ACT-help-3SG/ACT-help-3SG  
「私は彼を手伝った／助けた。」
- b. Saya men-[t]olong/mem-bantu dia meng-angkat barang itu.  
1SG ACT-help/ACT-help 3SG ACT-carry stuff that  
「私は彼がそれを運ぶのを手伝った。」

(19) 【(社会的) 相互行為 (言語行動)】

- a. Saya (ber-)tanya (tentang) alasan itu kepada-nya.  
1SG BER-ask about reason that to-3SG
- a'. Saya (ber-)tanya dia (tentang) alasan itu.  
1SG BER-ask 3SG about reason that
- a''. \*Saya men-[t]anya-i (tentang) alasan itu kepada-nya.  
1SG ACT-ask-I about reason that to-3SG
- a'''. Saya men-[t]anya-i-nya (tentang) alasan itu.  
1SG ACT-ask-I-3SG about reason that
- a''''.\*Saya (ber-)tanya/men-[t]anya-i alasan itu dia.  
1SG BER-ask/ACT-ask-I reason that 3SG  
「私はその理由を彼に訊いた。」
- b. Saya mem-beritahu-nya (tentang) perkara itu.  
1SG ACT-tell-3SG about matter that
- b'. Saya mem-beritahu (tentang) perkara itu kepada-nya.  
1SG ACT-tell about matter that to-3SG
- b''. Saya ber-cerita \*(pada)-nya (tentang) perkara itu.  
1SG BER-story to-3SG about matter that
- b'''. Saya ber-cerita (tentang) perkara itu pada-nya.  
1SG BER-story about matter that to-3SG
- b''''.\*Saya mem-beritahu/ber-cerita perkara itu dia.  
1SG ACT-tell/BER-story matter that 3SG  
「私はそのことを彼に話した。」

(ber-)tanya, menyanyai「尋ねる」, memberitahu「伝える」は, それぞれ(19a'), (19a''), (19b)のように名詞句を2つ連続して取る, 二重目的語構文が可能である. いずれも名詞句の語順は「終点 (goal) 対象 (theme)」である. 逆の語順だと, (19a'''), (19b''')のように, 非文となる. bercerita「話す」には二重目的語の用法がない. そのため, (19b'')で終点名詞句に付く前置詞 pada「に」は義務的である.

(20) 【再帰・相互】

- a. Saya (ber-)jumpa (dengan)-nya.  
1SG BER-see with-3SG  
「私は彼に会った.」
- b. Saya men-jumpa-i (\*dengan)-nya.  
1SG ACT-see-I with-3SG  
「私は彼に会った.」

参考文献

- Hopper, Paul J. & Sandra A. Thompson. 1980. Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56: 251–299.
- Kartini Abd. Wahab & Hiroki Nomoto. 予定. Konstruksi penaikan dan kawalan dalam bahasa Melayu [マレー語の繰上げ構文とコントロール構文]. Rogayah A. Razak & Radiah Yusoff (eds.) *Aspek Teori Sintaksis Bahasa Melayu*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
- Malchukov, Andrej L. 2005. Case pattern splits, verb types and construction competition. In Mengistu Amberber and Helen de Hoop (eds.) *Competition and Variation in Natural Languages: The Case for Case*, 73–117. London and New York: Elsevier.
- 野元裕樹, ウン・シンティ, ファリダ・モハメッド. 2013. 「マレーシア語の所有表現 (データ)」『語学研究所論集 18』, 332–343. 東京外国語大学.
- Soh, Hooi Ling & Hiroki Nomoto. 予定. Degree achievements, telicity and the verbal prefix *meN-* in Malay. *Journal of Linguistics*.
- Tsunoda, Tasaku. 1981. Split case-marking in verb types and tense/aspect/mood. *Linguistics* 19: 389–438.
- Tsunoda, Tasaku. 1985. Remarks on transitivity. *Journal of Linguistics* 21: 385–396.
- 角田太作 (1991) [改訂版 2009] 『世界の言語と日本語』くろしお出版.